

作成年月日	令和2年6月16日
作成部局	農政環境部環境創造局自然環境課

「兵庫県版レッドデータブック 2020（植物・植物群落）」の改訂

「生物多様性ひょうご戦略推進委員会（委員長：中瀬勲県立人と自然の博物館館長）」において、絶滅のおそれのある貴重な野生動植物等の選定や貴重性評価の考え方などについて検討し、「兵庫県版レッドデータブック2020（植物・植物群落）」（以下「2020年版」）を改訂しました。

植物・植物群落については、前回2010年版から10年ぶり、3度目の改訂となります。なお、次回は、2023年（令和5年）に、昆虫類及び鳥類の改訂を予定しています。

（兵庫県版レッドデータブックの改訂状況）

発行年	1995	2003	2010	2011	2012	2013	2014	2017	2020	2023 (予定)
区分	全区分 (初回版 発行)	全区分	植物 植物群落	生態系 地形 地質 自然景観	昆虫類	鳥類	貝類 その他 無脊椎 動物	哺乳類 爬虫類 両生類 魚類 クモ類	植物 植物群落	昆虫類 鳥類

(概ね10年ごとの見直しを想定)

1 改訂の概要

(1) 植物

○ 全体

①新たに110種がリスト入り、②2010年版リスト掲載種の内126種が上位（悪化）の категорияに変更、③14種をリストから除外しました。2020年版のリスト掲載種数は1,042種となり、2010年版の946種から96種（110種-14種）増加し、全体として絶滅の危機や存続基盤の脆弱さがより高まる傾向にあります。

カテゴリー 分類群	今回（2020年版）									前回（2010年版）							増減	
	絶滅	旧		B	C	地域絶滅 危惧	要注 目	要調 査	計	絶滅	A	B	C	地域絶滅 危惧	要注 目	要調 査		計
		野生絶滅	A															
維管束植物 (種子植物、シダ植物)	33	4	309	224	195	-	-	44	809	23	242	206	206	-	-	52	729	+80
蘚苔類 (コケ)	1	-	62	29	50	-	-	0	142	-	58	31	43	-	-	0	132	+10
藻類 (淡水藻、海藻)	-	-	16	10	7	11	-	3	47	-	5	8	5	11	-	15	44	+3
菌類 (キノコ)	-	-	4	11	-	-	16	13	44	-	1	9	-	-	17	14	41	+3
合計	34	4	391	274	252	11	16	60	1,042	23	306	254	254	11	17	81	946	+96

※新たに、維管束植物に「野生絶滅」、蘚苔類に「絶滅」の category を設けました。（網掛け箇所）
 ※※各分類群において左方の category ほど貴重性が高い上位の category となります。

○ 各分類群

・ 維管束植物

①新たに89種がリスト入り、②2010年版リスト掲載種の内102種を上位の категорияに変更、③9種をリストから除外しました。

新たに「絶滅」としたものは、ヒメユリ、ベンケイソウ、ゴマノハグサ、フサタヌキモ、ドクゼリ等16種、新たに「野生絶滅」(飼育・栽培下又は自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種)にしたものは、イワチドリ、オオミクリ、ナガボテンツキ、ハマビシの4種です。

・ 蘚苔類

①新たに13種がリスト入り、②2010年版リスト掲載種の内6種を上位の categoriaに変更、③3種をリストから除外しました。

蘚苔類で初めての「絶滅」としたものは、アオゴケ1種、新たにリスト入りしたものは、ウロコミズゴケ、フウリンゴケ等13種です。

・ 藻類

①新たに3種がリスト入り、②2010年版リスト掲載種の内13種を上位の categoriaに変更しました。

淡水藻類において、新たにリスト入りしたものは、紅藻類のタニガワカワモズク、車軸藻類のオウシャジクモ、ジュズフサフラスコモの3種です。

なお、海藻類においては、変更ありません。

・ 菌類

①新たに5種がリスト入り、②2010年版リスト掲載種の内5種を上位の categoriaに変更、③2種をリストから除外しました。

新たにリスト入りしたものは、カンムリタケ、アイゾメイグチ等5種です。

(2) **植物群落** (一定範囲の場所に生成し互いに連関している植物の個体群全体。六甲山頂のブナ原生林、砥峰高原のススキ草原 等)

①新たに64箇所がリスト入り、②2010年版リスト掲載箇所の一部を分割したことで19箇所を追加、③39箇所をリストから除外しました。2020年版のリスト掲載箇所数は550箇所となり、2010年版の506箇所から44箇所増加しました。

なお、選定に際し、人為的影響、生育環境の変化、貴重性の程度を考慮した評価方法に変更しました。

今回 (2020年版)					前回 (2010年版)					増減
A	B	C	要注目	計	A	B	C	要注目	計	
77	113	310	50	550	57	123	293	33	506	+44

今回からは、人の手が加わった二次的自然(草原等)についても自然植生と同様に評価し、千種川河川敷のカワラヨモギーハマウツボ群落をAランク、上山高原のススキ群落をBランクとしました。

2 活用方法

- (1) 環境影響評価における基礎資料（環境・土木工事等担当課、太陽光・風力発電開発事業者等）
- (2) 自然環境保全地域等や天然記念物の指定における基礎資料（自然環境課、県市町教育委員会）
- (3) 地域の保全活動の取組促進（県民局、市町、NPO 団体等）
【植物の保全活動の事例】
 - ・赤穂市立高雄小学校（ハマウツボ）
 - ・ネスタリゾート神戸（ヤブレガサモドキ）
 - ・多紀連山のクリンソウを守る会（クリンソウ）
- (4) 自然環境保全の啓発活動の推進（人と自然の博物館、NPO 団体等）

3 公表

種名リストや写真、分布域等をホームページ（「ひょうごの環境」）に掲載します。
また、（公財）ひょうご環境創造協会から、冊子として「兵庫県版レッドデータブック 2020（植物・植物群落）」を発行、販売します（8月頃を予定）。

ホームページ「ひょうごの環境」(<https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/>)
ホーム > 自然環境 > 兵庫県版レッドリスト

<問い合わせ先>

兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課自然環境保全班 TEL：078-362-3274